

研究概要

1. 研究名称 または課題名テーマ等

せん妄予防に関する看護師教育の有効性
～急性期と緩和医療科の混合病棟における実情から～

2. 研究責任者(当院)

所属： 看護部 A2 病棟

氏名：小松崎 亜紀

共同研究の場合は代表機関 及び 代表者名

機関名：

代表名：

3. 分担研究者

所属：

氏名：

4. 研究対象者

研究期間内（2020 年病棟編成時～2025 年 8 月 31 日）に病棟に所属している当該病棟看護師であり、2025 年 8 月時点で当該病棟に所属している病棟看護師の中で、3 年間のうち、緩和医療科医師によるせん妄予防時の薬剤選択と麻薬の使用方法についての教育プログラムを 1 回でも受けた病棟看護師。

日勤のみ・夜勤専従、交代制勤務などの勤務形態、常勤、パート勤務などの雇用形態は問わない。

5. 研究の必要性

病棟看護師によるせん妄予防ケアには、環境を整える、コミュニケーションや家族支援によるケアと同時に、医師の指示の元に行なわれる薬理的せん妄予防が重要となる。緩和医療科では、様々な症状に柔軟かつタイムリーに対応するため、医師が使用する可能性のある薬剤を看護師の判断で使用できるシステムとなっている。そのため、看護師は専門的知識を持ち、適切なアセスメントを行う必要がある。現在、当該病棟において、3 年間、継続的に定期的な病棟内勉強会を医師に依頼し、実施している。これにより、依然と比較し、使用される薬剤は適切に選択されるようになり、看護師も戸惑うことなく、スタッフ間でカンファレンスを行い、薬剤を使用することが可能となっている。さらに、他の診療科の医師に対しても、せん妄出現時の薬剤師用についての相談が以前よりも活発に行われるようになっている。このことから、継続した看護師への教育は、看護師の知識の向上、看護の質の向上につながっていると考え、この取り組みの効果について検証し、今後の看護師教育システム構築につなげていきたい。

6. 研究等によって生ずる個人への影響と医学上の貢献の予測

病棟看護師がせん妄症状の対応に苦慮する事なく、患者の安全と安楽を守り、質の高い看護の提供を可能とすることが出来る。

7. 対象者、関係者等からの問合せ先(当院)

連絡先番号：043-486-1151

担当者氏名：小松崎 亜紀

対応時間：平日 8:30～17:00